

新型コロナウイルス感染症対策における PCR検査等を求める申し入れ（12月23日）

12月23日、日本共産党名古屋市議団は、河村市長に「感染症対策におけるPCR検査等を求める申し入れ」を行いました。山田俊彦健康福祉局長、浅井清文医監が対応しました。

PCR等検査を

「いつでも、誰でも、何度でも、無料で」

11月、12月は新型コロナウイルスの陽性者は減少していますが、感染経路不明が多くなっています。浅井名古屋市長・保健所長・医監は、11月20日愛知県新型コロナウイルス対策本部会議で、「市内では無症状でウイルスを持っている人が感染を広げている可能性がある」（中日新聞、11月21日付）と発言しています。

市議団は、要請で感染不安を市中の無症状の感染者を探し出し、感染経路を断って、感染拡大を防ぐために、PCR等検査の拡大を求め



ました。

山田福祉局長は、「県がワクチン未接種の方を優先しながら大規模にPCR検査を実施すると発表した。国の動きも注視していきたい」とこたえました。また、PCR検査を大規模おこなうためには体制が必要との考えを示しました。市議団は「県の行うPCR検査ではまだまだ不十分であり、第6波もみすえて、PCR等検査を『いつでも、誰でも、何度でも、無料で』行えるようにすることを提案しました。

感染経路を断つための策を

11月に終了した介護施設等のスクリーニング検査や駅などで行ったモニタリング検査について、健康福祉局長は、「国の事業として実施した検査は一定の役割を果たした」と述べ、市として、今後再開・再実施する考えは述べませんでした。市議団は、高齢者施設での検査再開にあたっては、陽性だった場合の職員の休業保証や代替要員確保なども必要であり、感染経路を断つための策を講じることを求めました。

2021年12月23日

名古屋市長 河村たかし様

日本共産党名古屋市議員団
団長 田口一登

新型コロナウイルス感染症対策におけるPCR検査等を求める申し入れ

新型コロナウイルス感染症から市民の命と暮らしを守るために、日夜奮闘していることに敬意を表します。

さて、コロナ感染者が減ってきていることは幸いですが、オミクロン株の広がりも心配され、まだまだ予断を許さない状況です。

浅井名古屋市長・保健所長・医監は、11月20日愛知県新型コロナウイルス対策本部会議で、「市内では無症状でウイルスを持っている人が感染を広げている可能性がある」（中日新聞、11月21日付）と発言しています。また、11月の名古屋市の新規患者の接触歴をみると、接触歴不明が、患者60人のうちの48人で80.0%います。コロナ感染症の不安を少しでも解消するよう、市中の無症状の感染者を探し出し、感染経路を断って、再び感染拡大することを防ぐことを求めます。

そこで、下記の申し入れを行います。

記

- 1 PCR等検査を「いつでも、誰でも、何度でも、無料で」をめざして実施すること。
- 2 11月で終了してしまった介護施設等のスクリーニング検査を再開すること。
- 3 市中の無症状の感染者を探し出すモニタリング検査の再実施を県に求めること。

以上